

(様式 6－1)

実績概要（ホームページ掲載用）

研究のテーマ	山梨県における景観視点場に関する基礎的研究
団体名	山梨大学
代表者	大山 勲
(目的) 山梨県の貴重な資源である眺望景観を保全するために、優れた視点場を抽出し、その特性を評価し、今後の山梨県の景観施策に資する情報を整理することを目的とする。寺社等の歴史的価値を持つ視点場を対象とし、主に甲府盆地を中心として視点場抽出と景観評価をおこなった。	
(概要)	
1. 背景 優れた視点場・保全すべき視点場として、山梨県は公共眺望ポイント89地点を選定し、各市町村の景観計画や観光Webページでは70地点の視点場が示されている。しかし視点場とそこからの守るべき景観の調査は不十分であり、景観行政において十分な指導ができない事例が多発している。	
2. 対象 上記の既知の視点場を除き、新たな優れた視点場を抽出する。寺社等から山並み・盆地・農村景観を望む景が得られる視点場を対象とする。また歴史的でなくとも既に定評を得ている視点場であるが上記の既知の視点場に選定されていないものも対象とする。抽出した視点場の景観を評価するために、すでに眺望景観保全施策を行っている先進的な市町村の事例を比較対象とする。	
3. 方法 悉皆的な現地踏査をおこなって、眺望が得られる視点場を抽出する。仰角・俯角・水平角等の景観の物理的指標を計測し景観の実態を定量的に把握する。視点場および眺めに関する歴史的意味を調べ景観の価値を評価する。比較対象地の景観の物理的指標と比較して抽出した視点場の景観特性を評価する。	
4. 主な結果 優れた景観視点場として74地点を抽出できた。各視点場の景観物理的指標と歴史的特徴をリスト化した。先進地事例として静岡・京都等の視点場27地点の景観の物理的指標を得た。景観は2つのタイプ（意味ある重要な主対象のタイプとパノラマ景のタイプ）に分けられた。主対象タイプは歴史的に意味を持つ視点・視対象の関係があり、視対象の仰角・見えの大きさ（垂直角・水平角）は5°以下が多く小さなものであったが、先進地ではその程度のものでもその意味的景観を重視して保全施策を講じていた。パノラマタイプは多くを占め山梨県の特徴であった。特に、先進地と比較して次のような優位性を定量的な計測結果に基づいて明らかにすることができた。①パノラマ景は垂直角・水平角とも大きく雄大な眺めを有する。特に水平角が大きい。②山並みの中に特徴ある山容の神体山（富士山、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳等）が仰角5～10°で複数同時に見える。③盆地の俯瞰景と山の仰瞰景が複合した眺め。これらが複合した景観は他にない特徴である。視対象と景全体の見えの大きさによって、74地点をさらにランク付けした。視野全体に広がる雄大な景を持つ視点場37地点、景全体が主対象としての存在感を持つ景13地点を抽出できた。景観の歴史的な意味については、各視点場の特徴を整理した。うち27地点でその意味を明らかにできたが、由来不詳の視点場も多く、今後の課題とした。	